

ガス製造から供給までトータルなご提供で、
お客さまの信頼にお応えします。

LNG VALUE CHAIN

液化天然ガス

LNGからガスをつくる 都市ガス製造基地

タンカーで運ばれたLNGは、4つの製造基地で貯蔵され、気化・付臭後に都市ガスとして送り出されます。



LNGを安全に貯蔵する LNGタンク

4つの都市ガス製造基地に設けられたタンクに、LNGが貯蔵されます。



天然ガスを原産国から運ぶ LNGタンカー

原産国で採取された天然ガスは、-162℃まで冷却してLNGとなり、タンカーで輸送されます。



確実に通信する 無線塔

高い信頼性をもつ通信網により、迅速な情報収集や的確なコントロールを可能にしています。



ガスを貯蔵する ガスホルダー

一部のガスはここに貯えられ、1日の需要に応じて送り出されます。



災害時にガスを安全に拡散する 放散塔

被害状況に応じて、導管内のガスを安全に空中へ放出し、拡散させます。



ガスをつくる



製造基地～高圧・中圧ガス導管は阪神・淡路大震災、東日本大震災クラスの大地震にも十分耐えられる構造となっています。

LNGを気化させる LNG気化器

アルミ製パイプの中にLNGを流し、そのパイプの外から海水をかけて温度を上げることで、LNGを気化させる装置です。



東京ガスの供給エリア・導管網

東京ガスは首都圏の1都6県のお客さまに、24時間365日、都市ガスをお届けしています。根岸、袖ヶ浦、扇島、日立の4基地で製造された都市ガスは、東京を囲むように環状に設置された高圧導管で首都圏一円に送られます。そこからお客さまの近くまでは中圧導管で送られ、さらに低圧導管に枝分かれして各ご家庭やオフィスビルや商業施設、工場などで供給されています。

- 当社高圧ガス導管
- - - 当社高圧ガス導管(計画中)
- 他社高圧ガス導管
- 東京ガスグループ供給エリア
- 東京ガス卸供給エリア

【供給エリア・導管網】



東京ガス供給指令センター

- 役割①: 平常時
都市ガスの製造・供給状況を監視・コントロール
- 役割②: 地震時
初動対応、地区ガバナに遠隔の遮断・再稼働指示

お客さまのもとへ

大規模地震に備える 3つの取り組み

大規模地震の被害を最小限に抑える



P.5

二次災害を未然に防ぐ



P.7

速やかにガス供給を再開する



P.9

ご家庭やオフィスへガスを運ぶ 低圧導管

地区ガバナで減圧されたガスを各ご家庭やオフィスなどに運びます。

揺れを感知するとガス供給を自動遮断する マイコンメーター(ガスメーター)

震度5程度以上の地震やガスの異常流出を感知すると安全装置が作動し、ガス供給を自動的に遮断します。



ガスをさらに減圧する 地区ガバナ(圧力調整器)

各エリアごとに設けられた地区ガバナでは、ガスをさらに減圧して低圧導管に送り出します。



地震を計測する SIセンサー(地震計)

地区ガバナに設置された地震計です。大きな地震を感知すると、連動している自動遮断装置がガスを遮断する仕組みになっています。



減圧したガスを各エリアへ送る 中圧導管

ガバナステーションで減圧されたガスを各エリアの地区ガバナへ送ります。

ガスを減圧して送り出す ガバナステーション

基地から高圧で送出されたガスを減圧します。



基地からガスを送る 高圧導管

基地から基地、基地からガバナステーションへ、ガスを高い圧力で送り届けます。

